

地方創生有識者懇談会 とりまとめ(概要)

感染症が地方に与えた影響、地方創生と密接に関連する新たな潮流

【感染症の影響を考える上での視点】

- 感染症をきっかけとした経済・社会の構造的な変化に起因する影響は中長期的に継続する可能性があることから、これらの影響に着目するとともに、デジタル化の進展やSDGsなど、地方創生と密接に関連する新たな潮流も含めて、地方創生の方向性を検討することが重要。

☆感染症が地方に与えた影響

- 行動制約、需要減少に起因する影響
(一時的な顧客減、観光需要の落ち込み等)
- 経済・社会の構造的な変化に起因する中長期的な影響
(新たな働き方の普及、地方への関心の高まり、
デジタル実装の進展に伴う経済的な影響、地域社会のあり方への影響)

☆地方創生と密接に関連する新たな潮流

- デジタル技術の向上と活用の必要性の高まり
- 世界的なSDGsへの関心の高まり
- 新しい働き方の浸透や、様々なひとが活躍できる環境の実現



今後の地方創生の方向性

【基本的な考え方】

- 感染症によるピンチを地方創生の取組を大きく広げるチャンスと捉えることが重要。
- デジタル実装を地方から進め、デジタルとリアルの相乗効果を生むこと等を通じて、デジタルを有効な「手段」として、目指すべき地方創生を追求することが可能。
- 魅力ある地方を作り上げる、幅広い地方創生の取組も引き続き重要。

(1) デジタル技術を活用し、地方のイノベーションを生む多様な人材・知・産業を集める

- ー 地方と都市との地理的／時間的な格差を埋め、地方でのしごとの創出、他地域との交流、都市からの流れの加速化等を目指す。

(2) 地方からデジタル実装を進め、地域の課題解決・魅力向上の“ブレークスルー”を進める

- ー デジタル技術により、地域資源の有効活用や地域が抱える課題への対応等を図ることで、地域の力を飛躍的に高めるブレークスルーを目指す。

(3) 地方の成長・持続可能性向上につながる新たな視点を取り入れた取組を進める

- ー 脱炭素を含むSDGsなどの新たな価値観に基づき、地方の優位性を活かした取組を積極的に実施し、地方の成長・持続可能性の向上を目指す。

(4) 感染症の教訓を踏まえ、地域内の結びつきを強化する

- ー デジタル技術を活用して地域の結びつきをより高めることにより、地方の危機対応能力やコミュニティ機能の向上を目指す。

(5) 地方でのデジタル実装を支える土台を作る

- ー ハード・ソフト両面のデジタルインフラ整備や人材の確保・育成により地方でのデジタル実装の一層の推進を目指す。